

## 特集

# ケーブル技術ショー2018 報告

「ケーブル技術ショー2018」が7月19日・20日に都内で開催された。今回の各社展示ブースで多く提案されたものとして、今年12月にスタートするFTTH化や新4K8K衛星放送対応のためのシステム、ソリューションがある。

NTT東西は「フレッツ・テレビ」の新4K8K衛星放送対応を12月に開始する。宅内設備を交換することなく同放送を視聴できるため、「4K放送+ブロードバンド」を強みにしたいケーブルテレビにとっては強力な競合相手が出現する。OTT利用者の増加も、ケーブルテレビの競争環境を厳しくしている。

ケーブルテレビがこれらの競合事業者に対抗するには、伝送路を光化してFTTHや新4K8K衛星放送を提供することが有効だ。ケーブルテレビが来年度以降に加入者を維持・拡大できるかどうかは、今年度に光化をどれだけ進められるかにかかっているととも言えるだろう。

ここでケーブルテレビにとって大切なのが、「光化の戦略」だ。日本ケーブルラボはケーブルテレビ事業者から要望が多かった技術戦略レポートの最新版、「羅針盤2018」を今年4月に公表した。「羅針盤」には伝送路の光化とオールIPなどのグランドデザインが示されている。

本特集では、38~40頁で日本ケーブルラボの松本修一専務理事に光化を含めてケーブルテレビが進むべきグランドデザインについて聞いた。18~20頁では主要メーカーが、FTTHや新4K8K衛星放送に対応するためのシステムを解説した。今年はケーブルテレビにとって、「光化の勝負所」だ。自社の未来につながる戦略的な設備投資を進めていきたい。(文：渡辺 元・本誌編集長)